

① みーんみーん……。待ちに待った夏休み。みらいは、ばあちゃんの家遊びに来ました。目に入る緑はさわやかで、木陰と地面の土が少しだけ暑さをやわらげられます。

② 「つぎは何して遊ぼうか？」

「どーみぎ食べるかい？」
目の前に出されたとうもろこしは、取り立てほやほや。あまい湯気に誘われて、縁側にハチが飛んできました。くるくるくる同じところを飛び回っています。

③ 「ばあちゃん、ハチが飛んできたんだけど。怖いよお」

「その子はみつばちだから、ちよっかい出さなければ怖くないさ。みつばちがいないと野菜と果物が取れなくなるしねえ。虫だけに無視するときな〜」
相手は人を刺すかもしれない怖い虫だといふのに、なんてのんきなんだと思いつつ、とうもろこしを食べながら、みらいはみつばちをボーッと眺めていました……。

④ 「ちよっと、そっち水足りてる？」

話し声がしたので目を開けると、ここはまさかのみつばちの巣の中。たくさんみつばちが右に左に走り回っています。

「水？」
みらいは、みつばちが水の話をしていることに驚きました。虫も水を飲むのかな。

⑤ 「もつとちようだい。おなかペコペコ〜」

赤ちゃんたちは、ご飯の時間のようです。みつばちたちは、細い廊下を抜けると小部屋に行き、扉を開けて、とても濃いはちみつを取り出してきました。

(⑤の続き)

そして、そのはちみつを水で薄めて、赤ちゃんたちあげました。みらいは、近所のお姉さんが粉ミルクをお湯で溶いて赤ちゃんにあげていたのを思い出し、何だか愛おしくなりました。

⑥ 「みずをまくから手伝って」

今日の暑さは、みつばちたちにとってもつらいようです。外から帰って来たみつばちが水をたくさんくんできて、お部屋にまいています。なんて賢いのでしょうか。

⑦ 「ずっと怖い怖いと思ってたけれど、人間と似てるんだな。水って大事なんだな」

水を上手に使うみつばちたちに、みらいはとっても感心しました。そして、少しだけみつばちが可愛く思えてきました。

⑧ のほんとしていると、急に熱く強い風が吹いてきました。みつばちたちが羽を扇風機にして空気の入替えを始めたようです。

⑨ むわっ。みらいは必死にこらえましたが、すごい勢いで外に吹き飛ばされてしまいました。目を開けると……、縁側でした。

⑩ よるが近づくことがわかる空の色。涼しくなったので、ばあちゃんと水やりの時間です。みらいはみつばちのことを思い出して、庭と畑にちよっぴり多めに水をまきました。

「ばあちゃん、明日も暑くなりそうだね
「やんだごどー」

笑い声が響くオレンジ色の庭にかかった虹は、みつばちからの贈り物のようでした。

※最初の一文は、作者の本間さんがわざと太字にしています。

※こちらの原稿は、小学生以下の方が対象の課題です。
子どもの部の課題場面は、表紙1枚のみです。

ストーリー部門
子どもの部 最優秀賞
作：本間 悠暖

なつ みらいとみつばちの夏

課題
原稿

イラスト(さし絵)部門
《子どもの部》